NIE実践報告

1．タイトル：新聞のある学校生活

2．学校名

和歌山県田辺市立田辺第三小学校

3．実践者名（代表者名）

北山敏和(校長)

4．学年

第1・2・3・4・5・6学年（全学年）

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会・理科（新聞を活用する学習環境の整備）全校320人

6．単元（本時の学習課題）名

新聞のある学校生活

7．目標(狙い)

子どもたちに新聞が情報源として有効なことを知り、「新聞形式」で自分の知識や経験、思いを仲間に伝えることの楽しさを知る

8．評価の視点

低学年：掲示板に貼られた新聞を読んだ　　中学年：調べたことを新聞形式でまとめることができる
高学年：調べ学習などで新聞を活用する

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

学校環境整備：「新聞のある生活」の環境を整え、子どもたちの利用を促進する.
教科：(主として）4年理科　5年社会　6年社会

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

環境：掲示板を設け、小学生新聞を掲示委員会の活動として毎日掲示する。
高学年のろうかにテーブルを置き、掲示の終わった新聞をストックし、活用しやすいようにする。
高学年の入り口の掲示板を新聞スクラップ掲示板とし、トピックを紹介する。
職員室内にスクラップ掲示板を設け、有用な記事を掲示する
学習：学習のまとめを「新聞形式」で行う(4年)
自作の新聞について、地元の新聞社見学の時に編集者から講評を受ける(5年)
学習資料として積極的に新聞記事を活用する(6年)

11．児童・生徒の反応、感想・意見

4年：デジカメを活用した新聞形式のまとめは楽しかった(4年児童）。
5年：専門家からのアドバイスがうれしかった(5年児童）。
6年：ろうかに新聞がありすぐ見ることができた。

12．成果と課題

新聞を読む習慣のない家庭（保護者)も増えてくる中で、情報源としての価値、生活を豊かにするためのツールとして新聞の良さを子どもに伝えられたと思われる。また、新聞形式のまとめは子ども立ちの総合的な力を伸ばす上で大きな効果があった。また地元新聞社の編集者からの好評、学習に目標を持たせるという意味で成功だった。課題は、一般紙はもちろん小学生新聞も、低学年児童にはなじみにくい。新聞記事を加工(注釈やふりがななど）する努力をできるかどうかが教師側の課題である。